
2024 年度 法学部・大学院法学研究科対象
モンゴル短期派遣 募集要項

1. 目的：

法学部・大学院法学研究科および法政国際教育協力研究センター（CALE）は、冷戦体制崩壊後、アジアの国々が民主化・市場経済化する中、留学生の受け入れを通じて、アジア法整備支援事業に取り組んでいる。アジアが世界の核として注目され、日本企業の多くがアジアに進出する中、留学生のみならず、日本人学生も含め、アジアを理解し、国際的な教養を身に着けたグローバル人材の育成にも力を入れている。近年では、グローバル化の進展にともない、環境・疾病・移民といったトランスナショナルな問題が起り、一国だけではなく国際的な視点をもった法律家が必要となってきた。

本プログラムは、民主化や市場経済化、グローバル化にともない生じる複合的な課題に、法改革・司法制度整備により取り組むアジアの法整備支援対象国への訪問を通じて、現代社会が直面する課題にどう取り組むべきかを考える機会を提供する。具体的には、派遣前の事前研修（10 コマ程度＋特殊講義「モンゴル法入門」）、現地の大学における講義・学生交流、法律機関の訪問などを通じ、各国が抱える問題を自ら発見し、そうした問題を法学・政治学の見地から分析するために必要な基礎的能力を身に着けることをめざす。

今年度の派遣対象国であるモンゴルは、冷戦体制崩壊後、他の多くの国と同様に、1990 年代はじめに、複数政党制を採用する等、社会主義を離脱し、民主化・市場経済化を進めてきた。民主化の第三の波で多くの国が民主主義へと移行したが、近時には権威主義体制への揺り戻しが起きている中で、権威主義体制を強化している中国とロシアの間に位置するモンゴルにはどのような影響があるだろうか。また、市場経済化により、土地の所有権、国有企業の民営化など、私的所有や私的自治の原則の確立に向けた課題も残っている。実際にモンゴルを訪問することにより、民主化・市場経済化・グローバル化の中でどのような課題が発生してきたかを考察する機会とする。

2. 応募資格・適性：

- ① 名古屋大学法学部・大学院法学研究科・法科大学院の正規課程に在籍する学生（但し、休学中を除く）
- ② 事前研修、報告書の作成等に積極的・主体的・自律的・協力的に参加できる者
- ③ 現地の生活に適応する意欲がある者
- ④ 英語で大学の講義が理解できること
基準：派遣時点で TOEIC730, iBT-TOEFL80 程度
- ⑤ 「比較法政演習 I」「比較法政演習 II」を受講済みであることが望ましい

3. JASSO(独立行政法人 日本学生支援機構)奨学金応募資格：

本プログラム参加者は JASSO 奨学金(月額 6 万円)への申し込みが可能。

申し込み条件：

- ① 日本国籍を有する者または日本への永住が許可されている者
- ② プログラム関連の単位を取得すること
- ③ 設定された以下の語学水準を満たすこと
語学水準 英語の場合の目安：TOEIC 400 点以上 (TOEFL の場合、PBT435 点以上、CBT123 点以上、iBT41 点以上、IELTS5.0(Academic Module)以上 または前年度の語学成績で成績評価係数 2.3 以上
- ④ 設定された以下の成績水準を満たすこと
学業成績が優秀で人物等に優れており、かつ、次に定める方法で求められる、**選考時の前年度の成績評価係数が 2.30 以上**であること。前年度の成績がない場合は、選考時の前学期分の成績が

ら算出するものとする。なお、成績評価係数で表すことができない場合は、別に定める様式に、特に成績が優秀であり、成績評価係数 2.30 以上であるとする理由を明記すること。

	成績評価			
評価点数	100～80	79～70	69～60	59 以下
	優	良	可	不可
	S、A+、A	B	C、C-	F、D
成績評価ポイント	3	2	1	0

計算式

{(「評価ポイント3の単位数」×3)+(「評価ポイント2の単位数」×2)+(「評価ポイント1の単位数」×1)+(「評価ポイント0の単位数」×0)} ÷ 総登録単位数

- ⑤ 在学中にフォローアップのための追跡調査に協力すること
- ⑥ 経済的理由により、自費のみでの参加が困難であること

原則として以下の家計基準の目安以下に合致する者を優先する

家計基準の目安

区分	給与所得世帯	給与所得以外の世帯
大学（学部）	3人世帯（自宅）1,012 万円	3人世帯（自宅）604 万円
	3人世帯（自宅外）1,059 万円	3人世帯（自宅外）651 万円
	4人世帯（自宅）1,096 万円	4人世帯（自宅）688 万円
	4人世帯（自宅外）1,143 万円	4人世帯（自宅外）735 万円
	5人世帯（自宅）1,314 万円	5人世帯（自宅）906 万円
	5人世帯（自宅外）1,408 万円	5人世帯（自宅外）1,000 万円
大学院（修士）	本人及び配偶者の収入	
大学院（博士）	536 万円程度	
	718 万円程度	

給与所得者・・・源泉徴収票の支払い金額（税込み）

給与所得以外・・・確定申告書等の所得金額（税込み）

渡航支援金

16 万円

※ただし家計支持者の所得金額（父母共働きの場合は父母の合算額）が次の金額である者

給与所得のみの世帯：年間収入金額（税込）が 300 万円以下

給与所得以外の所得を含む世帯：年間所得金額（必要経費等控除後）200 万円以下

※他団体などから奨学金を受けている学生は、当奨学金との併用が認められない奨学金もあるので、確認すること。また、JASSO の奨学金も種類によっては併給が認められない場合があるため、同じく事前に必ず確認すること。

4. 募集人員：10 名程度

派遣先：モンゴル モンゴル国立大学

5. 活動内容（履修科目）：

- ① 事前研修の一環として、以下の講義を受講すること（2 単位）。

・特殊講義「特殊講義（モンゴル法入門）」（日本語・英語）

水曜日 5 時限 時間割コード：0302080

※ただし、法科大学院生は聴講を推奨するが、単位付与なし。

- ② 事前研修+実地研修として、以下の講義を履修すること（2 単位）。

(学部生・大学院生) 受講登録は CALE が行うため、自身で行わないこと。

- ・学部生科目名：特殊講義（法整備支援論演習 I） 時間割コード：0308323
- ・大学院生科目名：特別講義・演習（法整備支援論演習） 時間割コード：2300331

(法科大学院生) 所定の履修許可申請書を、授業担当教員及び指導教員の承認を受けた上、履修登録と同時に法科大学院担当に提出すること。

- ・法科大学院生科目名：特別講義・演習（法整備支援論演習） 時間割コード：2300341

【事前研修（10 回程度）】

- ・モンゴルに関する一般事情および法律・政治制度の講義（アジア法整備支援特別講座として一般にも開講予定）（3 回程度、5～7 月頃）
 - ・言語・文化ワークショップ（3 回程度、7 月頃）
 - ・訪問機関に関する勉強会（2 回程度、6～8 月頃）
 - ・プレゼンテーション準備（2 回程度、8 月頃）
- 上記以外に、オリエンテーションを数回実施予定。

【実地研修】

- ・現地大学において学生との討論や交流
- ・モンゴル法に関する講義の受講
- ・法律関係機関見学（裁判所、弁護士事務所等） 等

【研修後】

- ・レポートの作成

③ その他

- ・サマースクール等 CALE が開催する講演会（随時）参加推奨

6. 派遣時期：2024 年 9 月上旬～下旬 10 日程度（予定）

注意事項：派遣日程は、選考後、派遣生と相談の上、決定する。

7. 応募願書締切：2024 年 4 月 19 日（金）17:00 ①願書フォーム ②課題レポートを提出すること。

8. 選考方法：書類選考＋面接（面接：4 月 23 日（火）～4 月 25 日（木））

9. 提出書類：

- ① 願書フォーム：下記 URL に入力して提出すること

https://www.ics-com.biz/web_entry/nagoya/entries/add/207

- ② 課題レポート：以下の文献を読み、関心を持ったモンゴルが抱える課題について、日本や国際社会の状況と比較した上で、自身の見解を 2000 字程度で論じなさい。

湊邦生「2022 年のモンゴル：腐敗と経済難との戦い」アジア経済研究所編『アジア動向年報 2023』（アジア経済研究所、2023 年）77-98 頁

https://doi.org/10.24765/asiadoukou.2023.0_77

以下のメールにレポートを添付して提出すること asean@law.nagoya-u.ac.jp

※成績を提出できない 1 年生については、本課題レポートにより、JASSO 奨学金受給の可否を判定する。

※合格決定後、JASSO 奨学金申請のため、外国語能力証明書の写し、成績表(日・英)の写し、家計基準申告書類、源泉徴収表の写しもしくは確定申告書（第一表と第二表）(控)の写しの提出を求める。

10. 費用：フライト代・宿泊費等、全額自己負担。支給要件を満たせば、JASSO 奨学金（給付額 6 万円）支給あり(10 名程度)

※家計収入（年間 300 万円未満）によっては、渡航支援金に申請可能。

問合せ先

法政国際教育協力研究センター(CALE) 研修内容関係：牧野、奨学金・事務手続関係：松本

TEL：052-789-2325 / 052-789-4263

E-mail：asean@law.nagoya-u.ac.jp